

2023 年 6 月 16 日

The Emerging Markets Weekly

欧米での金融政策決定に揺れた新興国通貨

新興国市場:先週末 9 日、アジア時間の新興国通貨は大半が上昇した。前日の米新規失業保険申請件数が急増したことでドルが軟調となった。KRW は堅調な韓国株式市場に連れて上昇、その他 THB も値を上げた。欧米時間の新興国通貨はまちまち。欧州時間は米金利が上昇し、ユーロに連れ東欧通貨は軟調となり、TRY は前日比▲1.3%下落。一方、中南米通貨は堅調。BRL や MXN が上昇した。週初 12 日、アジア時間の新興国通貨は軟調。CNY や IDR が値を下げた。欧米時間は米主要イベントを控え様子見ムードが広がり、新興国通貨は方向感なく大半が小幅な値動きにとどまった。ZAR は前日比+1.0%上昇。他方、RUB が前日比▲1.3%下落し、TRY も引き続き値を下げた。13 日、アジア時間は米 5 月消費者物価指数(CPI)の発表を控え、新興国通貨は狭いレンジ内での推移となった。CNY は中国人民銀行(PBoC)が 7 日物リバースレポ金利を引き下げたことを受けて下落。片や、KRW は株式市場の上昇もあり値を伸ばした。欧米時間の新興国通貨はまちまち。米 5 月 CPI の伸び率鈍化がドルの重しとなった。MXN が小幅に上昇。一方、RUB や ZAR は値を下げた。14 日、アジア時間の新興国通貨は FOMC の発表を控え軟調。KRW や THB が下落した。欧米時間、米 5 月生産者物価指数(PPI)が市場予想を下振れ、ドルが下落。新興国通貨は反発した。FOMC では政策金利は市場予想通り据え置かれるも、年内 2 回の追加利上げを示唆する内容にドルが上昇、新興国通貨は上げ幅を縮小した。ZAR と BRL は前日比+1.0%超上昇。15 日、前日の FRB の決定や中国の 5 月不動産関連指標が軟調な結果に終わったことで新興国通貨は売りが優勢となった。特に THB は国内政治の不透明感が嫌気されて下げ幅を拡大した。欧米時間、ECB が市場予想通り利上げを決定したことを受けてドル高は一服。東欧通貨や ZAR の上昇が目立った。

アジア:9 日発表の中国 5 月 CPI は前年比+0.2%、5 月 PPI は前年比▲4.6%と共に弱い結果に終わった。12 日発表のインド 5 月 CPI は前年比+4.25%と市場予想(同+4.31%)を下振れた。PBoC は国内の軟調な経済指標を受け 13 日、7 日物リバースレポ金利を、15 日には 1 年物中期貸出ファシリティー(MLF)レートはそれぞれ 10bp 引き下げた。また、政府は不動産取引に係る景気刺激策を検討する見通し。15 日発表の中国 5 月鉱工業生産は前年比+3.5%、5 月小売売上高は前年比+12.7%となった。台湾中央銀行は 15 日に政策金利を 1.875%に据え置いた。輸出実績が伸び悩む中で、台湾の 23 年実質 GDP 成長率予想は前年比+2.2%から同+1.7%へ引き下げられた。

中東欧・アフリカ:ロシア中央銀行(CBR)は 9 日、政策金利を 7.50%に据え置くことを決定した。同日発表のロシア 5 月 CPI は前年比+2.51%と市場予想(同+2.46%)を上回った。トルコのエルドアン大統領は 9 日、トルコ中央銀行(CBRT)の総裁に米金融機関出身のハフィゼ・ガイ・エルカン氏を指名した。総裁を 2 年余り務めたカブジュオール氏の後任となる。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(トルコ)

中銀総裁・財務相交代で高まる政策正常化への期待

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

サマリー

- 大統領・議会選挙後に発表された閣僚人事では市場の評価の高かったシムシェキ元財務相が再登板。また、米金融機関出身のエルカン氏がトルコ中央銀行初の女性総裁に。
- 過去の3度の政策正常化局面ではトルコリラの対ドル相場は約10～20%反発。
- 政策の持続性に対する懸念は熾るものの、昨年のリラ相場急落や経済混乱の影響から大統領選での苦戦を強いられたことがエルドアン大統領による政策正常化への支持につながる可能性。

トルコでは5月28日の決選投票を制し再選を果たしたエルドアン大統領のもと、経済運営の体制が一新されており、低金利・信用拡張に依存した政策運営からの転換が図られるのではないかという期待が高まっている。

焦点となっていた閣僚人事では6月3日にシムシェキ元財務相の復帰が公式に発表されている。シムシェキ氏は米系の投資銀行でエコノミストを務めた経験があり、トルコ政府に転じてからは副首相や財務相といった要職を歴任した。シムシェキ氏はトルコの経済発展に貢献するとともに財政規律を重視し、トルコ中銀の独立性を尊重する姿勢を示していた。2018年の大統領選挙後にシムシェキ氏が閣外に去り、エルドアン大統領が娘婿のアルバイラク氏を財務相に就任させたことが、同年8月のリラ急落の一因となったと見られる。シムシェキ氏の財務相復帰は、市場の信認を取り戻すためには理想的な選任と言えよう。

また、トルコ中央銀行総裁として、米系の金融機関で長いキャリアを持つエルカン氏の就任が6月9日に発表された。トルコ中銀では初の女性総裁となる。金融政策に対する考え方は未知数なものの、彼女のキャリアからして、「マーケット重視」というメッセージとなろう。

トルコ中銀は大幅利上げ開始へ

トルコ中銀の次回金融政策決定会合は6月22日に控える。シムシェキ財務相は就任後の会見で正統派の政策への転換を示唆しており、そのシムシェキ氏がエルカン氏と総裁人事発表前に会談したとブルームバーグが報じていることを考慮すれば、今回のトルコ中銀の会合は「低金利によるインフレ抑制」という異端の論理から「利上げによるインフレ抑制」という正統派の金融政策への転換を宣言するものとなる可能性が高い。短期金利市場の織り込みを考慮する限り、+5%ポイントの利上げに加えて、先行きの利上げ継続や実質政策金利のプラス転換を示唆するフォワード・ガイダンスが市場の期待値を上回るための最低ラインとなろう。

トルコでは2014年、2018年、2020年にも正統派の政策運営への転換が図られた時期がある。その際にはトルコリラの対ドル相場は10～20%反発している。今次局面で

も、実際に正統派の政策運営への転換への道筋がはっきりと示されるようであれば、大統領選(1 回目投票)の前の水準である対ドルで 19 台半ばへの反発は起こり得ると見ている。

政策の持続性に対する懸念が燃えることは避けられないが、、

もちろん、政策の持続性に対する懸念が燃えることは避けられないだろう。特に、前回 2020 年に正統派の政策運営への転換が図られた際には、その旗手となったアーバル元中銀総裁は就任 5 か月足らずで累計 8.75%ポイントの利上げを実施した後に、エルドアン大統領によって突然更迭された。後任者のカブジュオール前総裁は任期を通じて政策金利の引き下げしか行わなかった。今回、総裁交代となったカブジュオール氏はトルコ銀行規制監督庁(BDDK)のトップという要職に転じている。決して低金利派が力を失ったわけではなさそうだ。もっとも、昨年のリラ相場急落や経済混乱の影響から大統領選での苦戦を強いられたことがエルドアン大統領による政策正常化への支持につながる可能性はある。今後の政策の展開を慎重に見極める必要があるだろう。

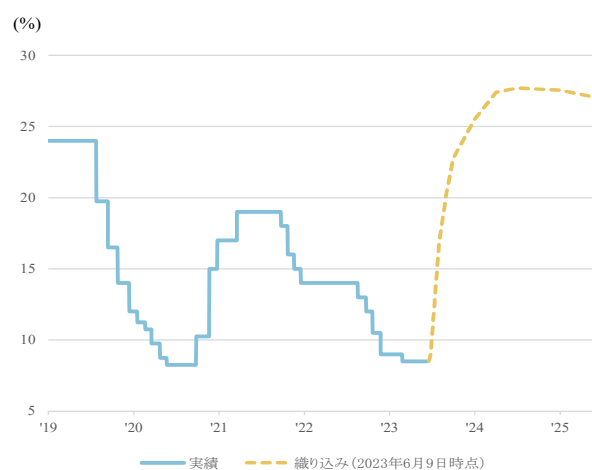
図表 1:過去の金融政策正常化局面

	2014年の5.50%ポイントの利上げ	2018年の6.25%ポイントの利上げ	2020年の4.75%ポイントの利上げ
会合日	2014年1月29日	2018年9月13日	2020年11月19日
リラ安の要因	(1)米FRBの量的緩和縮小への懸念、(2)アルゼンチンペソ急落に伴う波及リスクへの懸念	(1)米国人牧師拘留問題を受けた米国との対立、(2)トルコの金融・財政政策の運営に対する懸念	(1)米国、EU、ロシアとの関係悪化、(2)新型コロナの世界的な流行に伴う観光業をはじめとするトルコ経済・国際収支への悪影響、(3)外貨準備の枯渇への懸念
トルコ中銀の対応	トルコ中銀は2014年1月21日の定例会合で利上げを見送ったが、リラ安が加速したことを受けて1月29日に臨時会合を開催。主要政策金利である1週間物レポレートと4.50%から10.00%に引き上げたほか、上限金利である翌日物貸出金利は7.75%から12.00%に引き上げた。	2018年当時、トルコ中銀は主要政策金利である1週間物レポレートと上限金利である翌日物貸出金利よりもさらに高い金利が適用される「後期流動性貸出」という資金供給手段を使い市中金利を高め誘導する「ステルス利上げ」を行っていた。 2018年5月23日にトルコ中銀は緊急会合を開催し、実質的な上限金利となっていた後期流動性貸出金利を3%ポイント引き上げ16.50%としステルス利上げを強化。その後、2018年5月28日には主要政策金利である1週間物レポレートも8.00%から16.50%に引き上げ、6月7日には追加で1.25%ポイントの利上げを行ったが、7月24日の会合では追加利上げを見送った。しかし、8月10日のリラ急落を受けて、9月13日の定例会合では1週間物レポレートを17.75%から24.00%へと引き上げた。	トルコ中銀は2020年8月以降、主要政策金利である1週間物レポレートに基づく資金供給を停止し、翌日物貸出金利と後期流動性貸出金利に基づく資金供給に切り替えることで市中金利を高め誘導する「ステルス利上げ」に再び傾斜していた。 しかし、2020年11月にエルドアン大統領は利上げに消極的だったトルコ中銀のワイサル総裁を解任し、アーバル元財務相を新総裁として任命。アーバル氏はトルコ中銀総裁就任直後の11月19日の会合での4.75%ポイントの1週間物レポレートの利上げを皮切りに、5か月足らずで累計8.75%ポイントの利上げを行った。

図表 2: 大幅利上げ前後のリラ相場の騰落率


注: 大幅利上げが発表された会合日の前日を基準として、トルコリラの対ドル相場の騰落率を計算している。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3:1 週間物レポレート 実績と市場の織り込み


注: 市場の織り込みは、OIS スワップカーブから求めた。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(中国)

5 月分主要経済指標の読み方

市場営業部
マーケット・エコノミスト

堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

先行き景気に対する悲観は若干後退も、実績では弱さが目立つ

S&P グローバル PMI の 5 月の結果は製造業・非製造業いずれも 4 月からは上昇した(図表 1)。製造業 PMI は、50.9 と 4 月の 49.5 から上昇し、2 か月ぶりに中立水準(=50)を回復した。先行きを示す新規受注指数も 51.8 と 3 か月ぶりの水準に戻っており、製造業の景況感に持ち直しが見える。一方、中国国家统计局版の製造業 PMI はカバー範囲が異なることもあって 4 か月連続で低下、2 か月連続で 50 割れを記録するなど軟調推移が継続した。また、非製造業 PMI は 57.1 と高水準を記録、5 か月連続で中立水準超えの推移となっている。その他の経済指標を確認すると、市場予想を下回るものが大半を占めた。15 日公表の 5 月鉱工業生産は前年比+3.5%と市場予想と一致も、4 月の同+5.6%から鈍化。加えて、5 月小売売上高は前年比+12.7%と市場予想の同+13.7%および 4 月の同+18.4%を下回った(図表 2)。国内の経済活動は最悪期を脱してはいるが、その後の回復ペースは緩慢と言える。懸案の不動産市況に関しても、5 月の固定資産投資や不動産投資は年初来ペースで市場予想を下回った(図表 3、4)。特に、不動産投資は前年比▲7.2%となっており、3 か月連続でマイナス幅を拡大させている。また、13 日に公表された 5 月金融指標では資金需要が低調で、マネーサプライの伸びも鈍化していることが確認されるなど不冴えな結果に終わった。中国人民銀行(中央銀行、PBoC)は緩和姿勢をとっているが、追加での利下げや信用緩和対策に加え、不動産開発支援策の実施などが待たれる状況だ。

外需の鮮明な減速を反映した貿易統計

5 月の中国貿易統計の結果は、輸出が前年同月比▲7.5%、輸入が同▲4.5%となった(図表 5)。また、貿易黒字は+658 億ドルを記録した。黒字額は前年同月比で▲16%減少し、市場予想である+955 億ドルを大きく下回る結果となった。この予想外の縮小は、伸び悩む輸出実績に拠る所が大きい。実際、輸出の市場予想は+8.5%だったのに対し、上述の通り予想に反し 4 か月ぶりに前年割れに転じている。国・地域別に確認しても、米国(▲6.5%→▲18.2%)、EU(+3.9%→▲7.0%)、日本(+11.3%→▲13.3%)、ASEAN(+4.5%→▲15.9%)と減少が目立った。一部西側諸国との経済面でのデカップリングが懸念される状況だが、それを加味しても外需の落ち込みが顕在化している印象が強い。主要国中銀の利上げは最終局面に突入しているとはいえ、今後も高水準の政策金利が各国の需要を抑制しよう。かかる中、短期間での中国の輸出状況の好転は見込みづらいのではないかと。

内需の弱さの継続を示す物価動向を受け、利下げに動いた PBoC

物価動向に関して、5 月消費者物価指数(CPI)が前年比+0.2%と 4 月の同+0.1%からは加速も、ゼロ%近傍での推移となっている(図表 6)。食品とエネルギー価格を除いたコア CPI も同+0.6%と低位安定している。食品価格は同+0.4%から同+1.0%へ上昇ペースを一部戻したが、サービス価格が同+1.0%から同+0.9%へ伸びが鈍化したこともあり、総合ベースへの影響は限定的となった。また、消費財価格は同▲0.4%から同▲0.3%へ 2 か月連続でマイナス圏での推移となった。川上部門の 5 月生産者物価(PPI)は、同▲4.6%と 16 年 2 月以来の落ち込み幅を記録しており、輸入イン

フレの一巡と共に需要の弱さが示唆される結果となっている。PPI の下落ペースは市場予想を上回るものであり、CPI の先行きにも弱気姿勢にならざるを得ない。当局者はデフレ状態を頑なに否認しているが、数字上ではデフレに突入していると思われる。かかる中、13 日には 7 日物リバースレポ金利が 2.0% から 1.9% へ▲0.1%ポイント引き下げられた。引き下げ決定は 22 年 8 月以来となる。これに続き 15 日には 1 年物中期貸出ファシリティー (MLF) レートは 2.75% から 2.65% へ同じく▲0.1%ポイント引き下げられており、PBoC は今後も緩和路線を継続することが見込まれる (図表 7)。

6 月の CNY 相場について

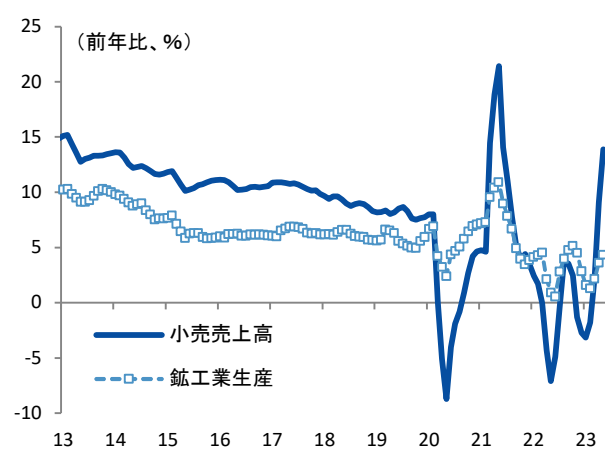
上述した主要経済指標の結果や PBoC の金融緩和を拡げる動きに付随する格好で、6 月に入っても対米金利差は拡大基調にある。対ドルでは断続的に年初来安値を更新しており、本稿作成時点では 7.17 付近での取引となっている (図表 8)。13～14 日開催の FOMC では年内 2 回の利上げが示唆されたほか、年内利下げ実施の可能性が大きく後退し、年後半にかけての「タカ派的な現状維持 (hawkish hold)」の姿勢が示された。一方で、PBoC は先述の利下げのほか、翌週に決定されるローンプライムレート (1 年物、5 年物) も引き下げを見込む声もあり、金利面で CNY が優位に立つ展開は一層期待しにくい状況にある。経済指標関連では、来月に 4～6 月期実質 GDP の公表を控えている。前年同期はコロナ規制下にあり、数字上では実態以上に強い結果となって CNY の追い風となる可能性はあるが、本欄で触れた経済指標には翌月以降も引き続き目を向けたい。この他に前向きな材料を挙げるならば、緩やかながら半導体市況の悪化に歯止めがかかりつつあることだが、海外との技術競争は熾烈で中国の生産シェアは大きくない中で、米国をはじめ西側諸国で対中輸出規制を延長・強化しているといった報道もあり、年後半にかけて半導体市況の持ち直しは中国経済の押し上げに繋がっていくかは未だに不透明な点が多い。かかる状況を踏まえ、本欄では 4～6 月期の安値を 7.20 とし、年間での成長目標 5% 達成に向けてじりじりと値を戻す展開を想定しているが、CNY の下落材料は至る所で残っており、楽観はできないと考えている。

図表 1: 中国 PMI の動向



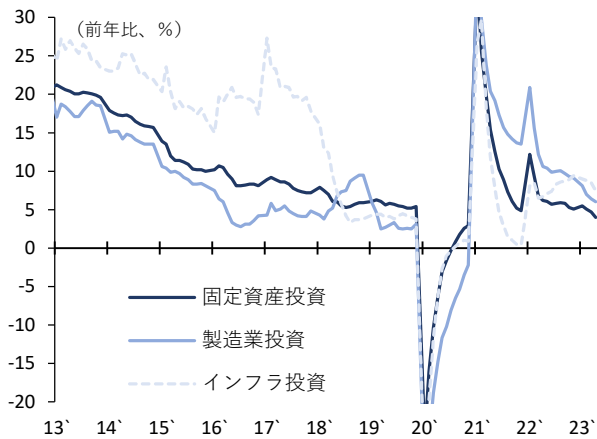
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 小売売上高と鉱工業生産の推移 (前年比%)



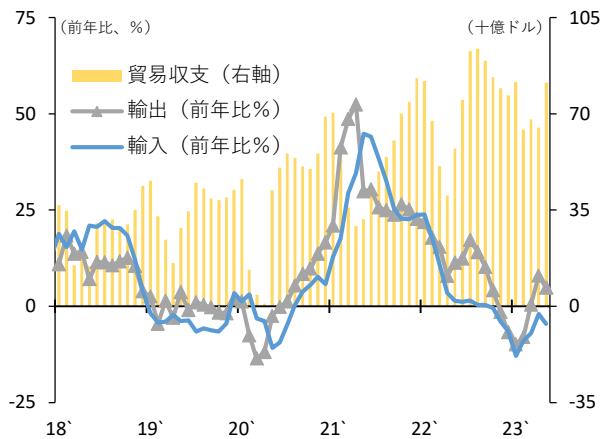
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

注: 前方 3 か月移動平均

図表 3: 固定資産投資(前年比%)


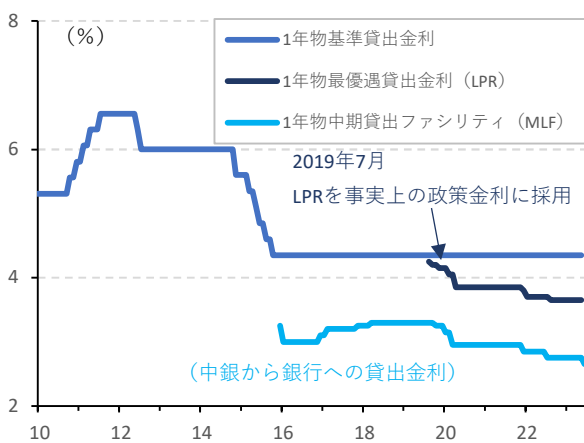
出所: Macrobond、みずほ銀行

注: 図表作成上、上限・下限をカットしている

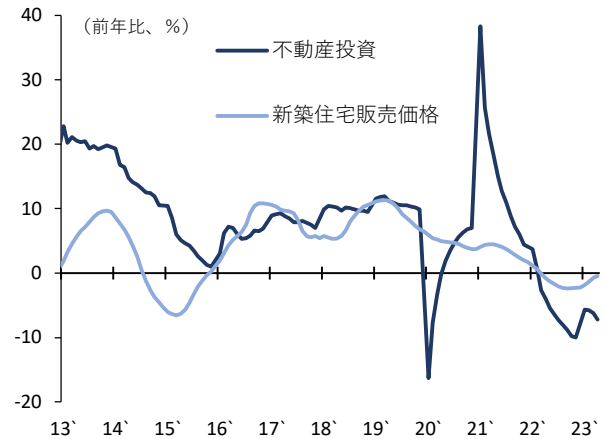
図表 5: 貿易実績の推移


出所: Macrobond、みずほ銀行

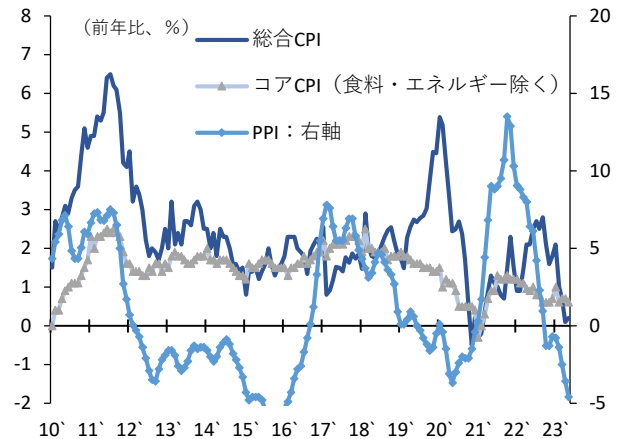
注: 後方 3 か月移動平均

図表 7: 各種政策金利の推移


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 不動産投資と新築住宅販売価格(前年比%)


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: CPI と PPI(前年比%)


出所: Macrobond、みずほ銀行

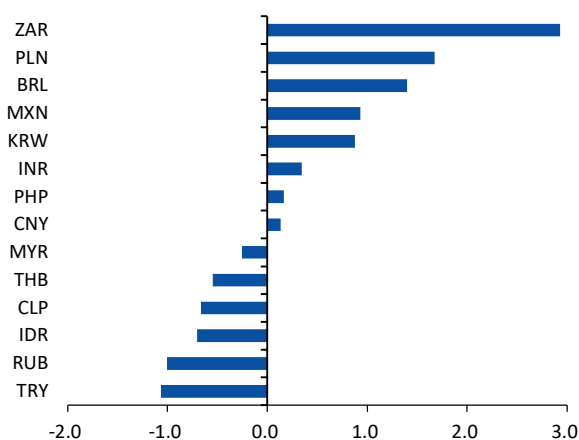
注: 図表作成上、下限をカットしている

図表 8: 対米金利差と人民元相場


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

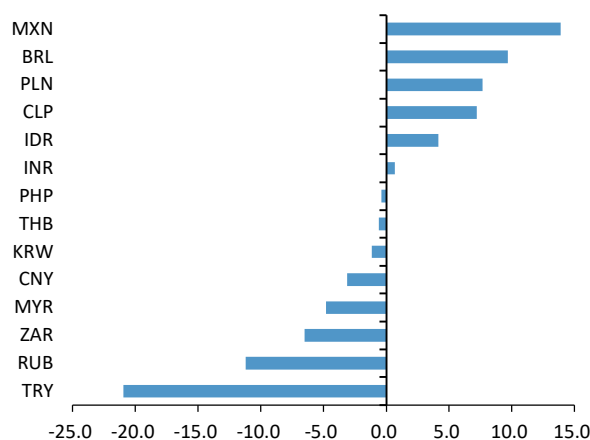
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



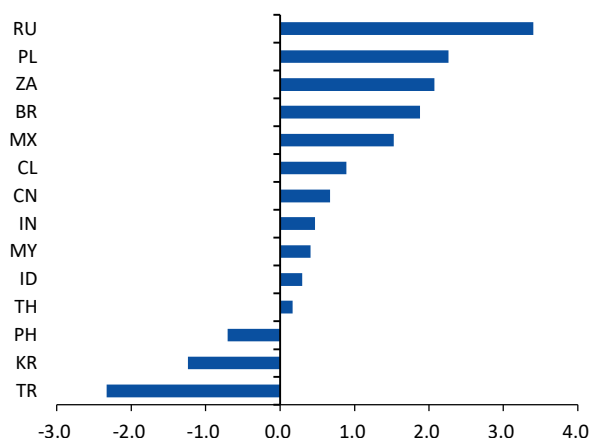
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



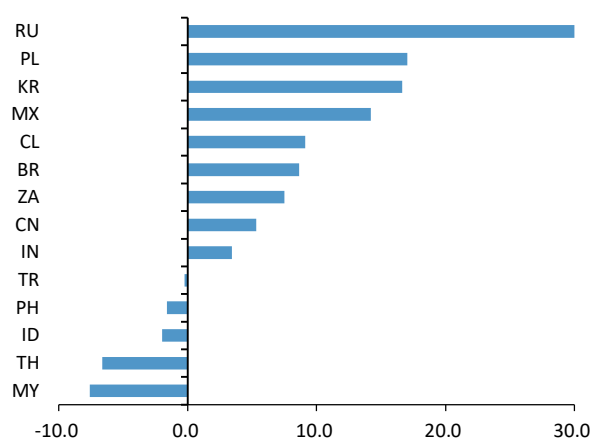
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



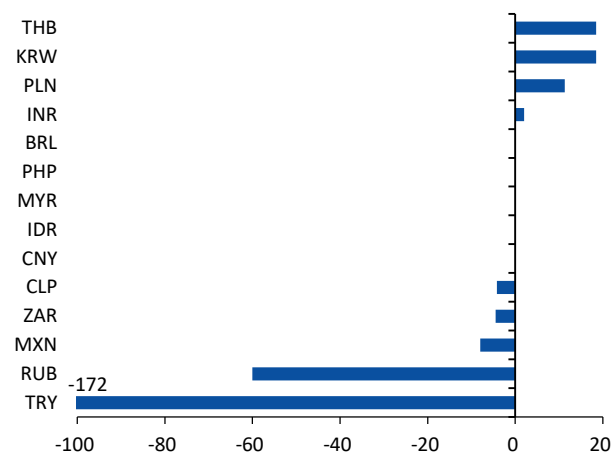
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

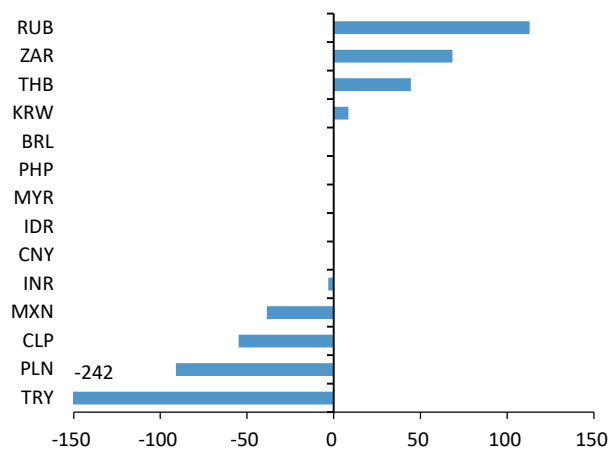
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

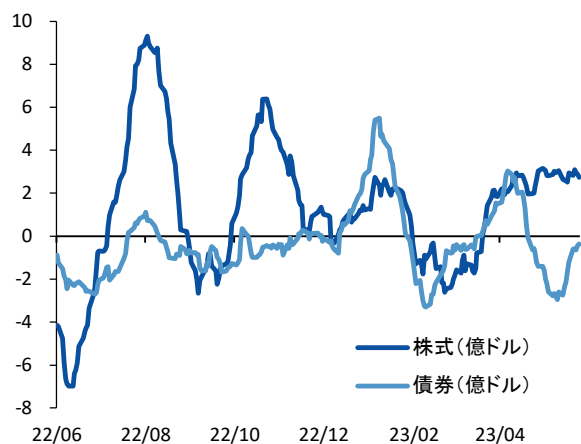


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

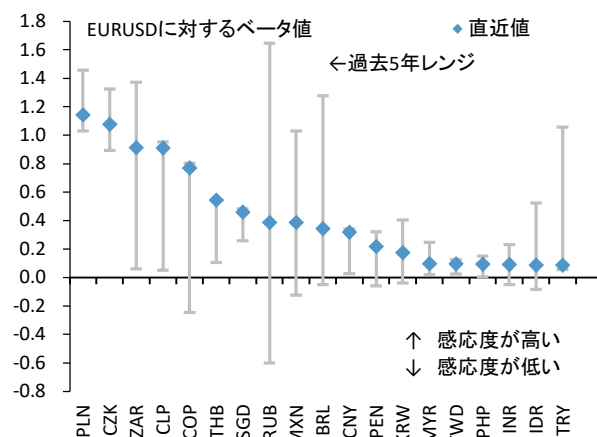
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



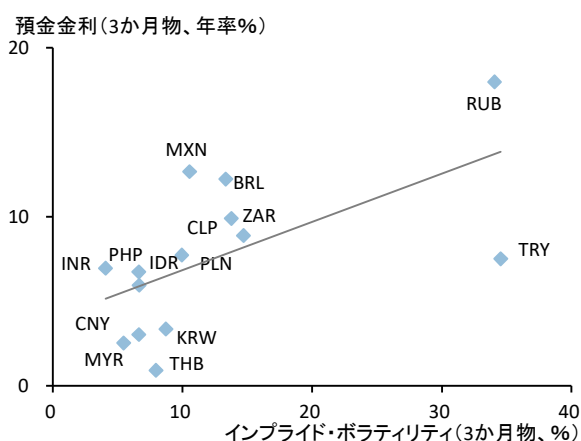
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



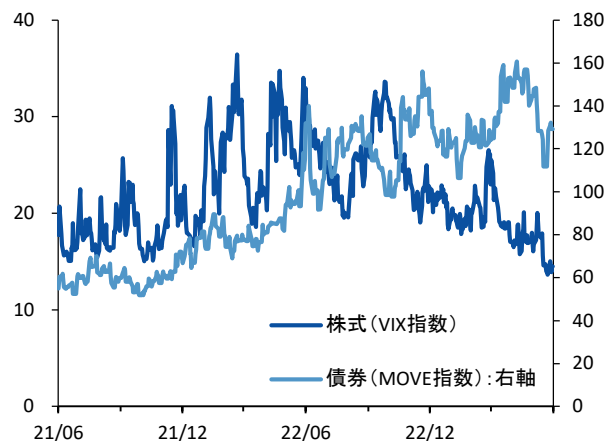
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



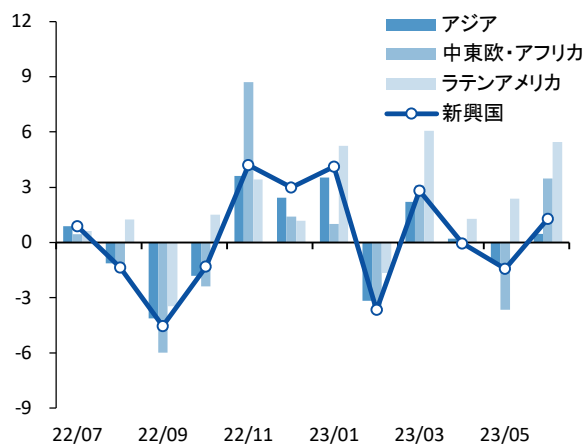
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



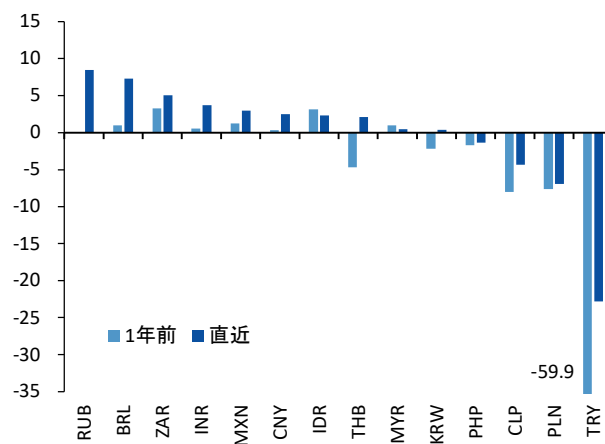
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月12日 (月)	インド	CPI(前年比)	4.3%	4.3%	4.7%	--
12日 (月)	インド	鉱工業生産(前年比)	1.3%	4.2%	1.1%	--
14日 (水)	インド	卸売物価(前年比)	-2.5%	-3.5%	-0.9%	--
14-18日	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	3.2%	--	3.0%	--
15日 (木)	中国	鉱工業生産(前年比)	3.5%	3.5%	5.6%	--
15日 (木)	中国	小売売上高(前年比)	13.7%	12.7%	18.4%	--
15日 (木)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	4.4%	4.0%	4.7%	--
15日 (木)	インドネシア	貿易収支	\$2940m	\$440m	\$3940m	--
15日 (木)	インド	輸出(前年比)	--	-10.3%	-12.7%	--
15日 (木)	インド	輸入(前年比)	--	-6.6%	-14.1%	--
15日 (木)	台湾	CBC指標金利	--	1.875%	1.875%	--
16日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	-7.9%	--	-9.8%	--
18-22日	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$148m	--
20日 (火)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	-17.4%	--
20日 (火)	台湾	輸出受注(前年比)	--	--	-18.1%	--
21日 (水)	韓国	PPI 前年比	--	--	1.6%	--
22日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	--	--	6.25%	--
22日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リバースレホ [®]	--	--	5.75%	--
23日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	3.3%	--
23日 (金)	シンガポール	CPI(前年比)	--	--	5.7%	--
23-28日	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	-\$1470m	--
中東欧・アフリカ						
6月12日 (月)	トルコ	経常収支	-4.38b	-5.40b	-4.48b	--
14日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	-1.2%	-1.6%	-1.6%	--
16日 (金)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	-1.9%	--
21日 (水)	トルコ	設備稼働率	--	--	76.0%	--
21日 (水)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	--	108.3	--
21日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	6.8%	--
22日 (木)	トルコ	1週間レホレート	--	--	8.50%	--
23日 (金)	トルコ	貿易収支	--	--	-8.74b	--
23日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	29.0%	--
ラテンアメリカ						
6月9-17日	ブラジル	税収	203600m	--	171056m	--
14日 (水)	ブラジル	小売売上高(前年比)	0.9%	0.5%	3.2%	--
16日 (金)	ブラジル	経済活動(前年比)	2.8%	--	5.5%	--
20日 (火)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	2.5%	--
20-27日	ブラジル	税収	--	--	--	--
22日 (木)	ブラジル	SELICレート	13.75%	--	13.75%	--
23日 (金)	メキシコ	オーバーナイトレート	--	--	11.25%	--

注: 2023 年 6 月 16 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2023年 1～5月（実績）	SPOT	2023年 6月	9月	12月	2024年 3月	6月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.6910 ～ 7.1128	7.1210	7.00	6.95	6.90	6.85	6.80
香港ドル	(HKD)	7.7920 ～ 7.8500	7.8218	7.84	7.84	7.82	7.80	7.76
インドルピー	(INR)	80.883 ～ 82.949	82.181	83.2	83.8	82.0	80.4	79.6
インドネシアルピア	(IDR)	14565 ～ 15643	14945	15050	15600	15000	14900	14800
韓国ウォン	(KRW)	1216.30 ～ 1343.02	1280.45	1330	1330	1290	1270	1250
マレーシアリング	(MYR)	4.2250 ～ 4.6398	4.6260	4.65	4.68	4.43	4.36	4.28
フィリピンペソ	(PHP)	53.628 ～ 56.438	55.948	56.3	56.6	53.8	53.5	53.0
シンガポールドル	(SGD)	1.3032 ～ 1.3576	1.3362	1.37	1.37	1.33	1.34	1.33
台湾ドル	(TWD)	29.608 ～ 30.915	30.714	30.5	31.2	30.7	30.0	29.5
タイバーツ	(THB)	32.57 ～ 35.39	34.81	34.8	35.0	33.8	32.8	32.7
ベトナムドン	(VND)	23415 ～ 23858	23535	23600	24500	23800	23700	23600
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	67.0415 ～ 83.2879	83.5314	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0
南アフリカランド	(ZAR)	16.6950 ～ 19.8672	18.2300	20.0	21.0	20.0	19.0	19.0
トルコリラ	(TRY)	18.4339 ～ 20.8081	23.6624	22.0	21.0	20.0	19.5	21.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.8858 ～ 5.4798	4.8137	5.05	5.20	5.10	5.12	5.15
メキシコペソ	(MXN)	17.4207 ～ 19.5882	17.1314	18.0	18.5	19.0	19.1	19.2
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	18.793 ～ 19.919	19.703	20.00	20.43	20.43	20.29	20.29
香港ドル	(HKD)	16.295 ～ 17.988	17.920	17.86	18.11	18.03	17.82	17.78
インドルピー	(INR)	1.559 ～ 1.704	1.706	1.68	1.69	1.72	1.73	1.73
インドネシアルピア	(100IDR)	0.831 ～ 0.942	0.937	0.930	0.910	0.940	0.933	0.932
韓国ウォン	(100KRW)	9.915 ～ 10.743	10.946	10.53	10.68	10.93	10.94	11.04
マレーシアリング	(MYR)	29.106 ～ 31.133	30.498	30.11	30.34	31.83	31.88	32.24
フィリピンペソ	(PHP)	2.325 ～ 2.522	2.525	2.49	2.51	2.62	2.60	2.60
シンガポールドル	(SGD)	96.55 ～ 104.36	104.90	102.49	103.50	105.70	103.58	104.15
台湾ドル	(TWD)	4.205 ～ 4.599	4.592	4.59	4.55	4.59	4.63	4.68
タイバーツ	(THB)	3.770 ～ 4.053	4.051	4.02	4.06	4.17	4.24	4.22
ベトナムドン	(10000VND)	0.5430 ～ 0.5999	0.5961	0.59	0.58	0.59	0.59	0.58
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.593 ～ 1.948	1.678	1.73	1.73	1.70	1.65	1.62
南アフリカランド	(ZAR)	6.909 ～ 7.863	7.689	7.00	6.76	7.05	7.32	7.26
トルコリラ	(TRY)	6.189 ～ 7.482	5.922	6.36	6.76	7.05	7.13	6.57
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	23.723 ～ 28.244	29.129	27.72	27.31	27.65	27.15	26.80
メキシコペソ	(MXN)	6.651 ～ 8.002	8.181	7.78	7.68	7.42	7.28	7.19

注: 1. 実績の欄は 2023 年 5 月 31 日まで。SPOT は 6 月 16 日の 8 時 20 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。